

佐賀県における建設業の担い手の育成・確保に向けた取組について

佐賀県 県土整備部 建設・技術課

1. はじめに

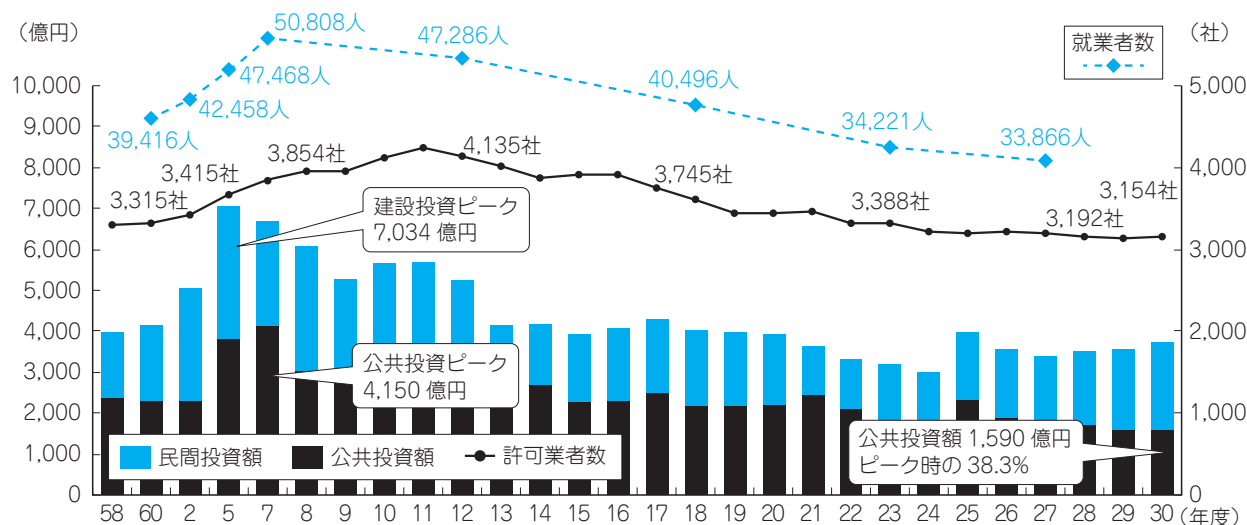
建設業は、地域の社会資本の整備や維持管理、災害時の防災・復旧等の活動を担い、地域経済や雇用の下支えを行う重要な産業であり、県内のそれぞれの地域に技術と経営に優れた建設業が存在することが重要である。

佐賀県における建設業就業者数は、国勢調査によれば、平成7年の50,808人をピークに減少傾向となり、直近の平成27年では33,866人と、ピーク時の約67%まで減少している。また、その

年齢構成は、平成7年は、29歳以下が約19%、55歳以上が約23%だったのに対し、直近の平成27年では、29歳以下が約11%、55歳以上が約39%となるなど、若手入職者の減少や就業者の高齢化が進み、将来の担い手不足が懸念されている（図－1）。

今後、生産年齢人口そのものが減少していく中、建設業が今後も地域を支え、持続的に発展していくためには、次世代へ技術や技能を継承する担い手を育成、確保していくことが重要な課題となっている。

本県では、将来の担い手確保に向け、業界団体



図－1 佐賀県内建設業就業者数等の推移

出典・建設投資額：国土交通省「建設総合統計年度報（表2）」・就業者数：国勢調査・許可業者数：大臣許可を含む各年度末の数値

等と協力しながら、建設業のイメージアップや建設業への入職を促す様々な取組を行っており、今回、こうした取組について紹介する。

2. 担い手の育成・確保に向けた取組

(1) 建設業のイメージアップの取組

若者に建設業への入職を促すため、小学生や建設業関連学科に学ぶ高校生などに対し建設業の魅力を発信し、将来の担い手を確保するための取組を行っている。

① 小学校での体験学習

将来、高校進学時に建設業関連学科を選択したり、建設業に就職してもらえるよう、業界団体と協力し、建設業の役割についての講演、ドローンの操作実演やフライトシミュレーター体験など、



建設業の社会的役割について説明



フライトシミュレーターでドローン操作体験

写真－1 小学校を訪問し体験学習

学校訪問による体験学習を実施している（写真－1）。

参加した児童からは、「建設業が普段の生活の中で役に立っていることが分かった」、「建設の仕事はドローンや最新技術があり、すごい」との感想が出されるなど、建設業への理解を深めることができた。

② 高校生と若手就業者との意見交換会

県内工業系高校の建設業関連学科で学ぶ生徒に建設業への理解や入職を促すため、学校を卒業して間もない建設業で働く若手職員と、建設業のやりがいや疑問、具体的な仕事内容について、意見交換会を実施している（写真－2）。

生徒からは「今の会社を選んだ理由」や「高校生のうちからしておくこと」などの質問があり、若手職員から「施工管理技士など資格は取った方が良い」、「自分のやりたいことを明確にする」などのアドバイスや助言など、活発な意見交換会となった。



写真－2 高校生と若手就業者との意見交換会

③ 高校生のための建設業合同企業説明会

卒業後の就職先など将来の進路を真剣に考える高校2年生を対象に、県内建設業者を一堂に集めた合同企業説明会を実施し、各建設業者の事業内容や特色等を紹介している。参加した生徒からは、「職場の雰囲気を知ることができた」、「いろいろな会社の特徴を知ることができた」などの

感想があり、参加企業からは、「求人を出してもなかなか応募がない中、生徒と直接話す機会が持てて良かった」、「今の高校生の就職に対する考え方がわかった」などの感想が出され、好評であった。こうした取組により、高校生が県内建設業者について知る機会を増やすことで、県内建設業への就職を促している（写真－3）。



写真－3 建設業合同企業説明会

④ さが土木フェアの開催

行政や業界団体、研究機関など、土木にかかわる関係機関が組織する「土木のイメージアップ連絡協議会」主催で、小学生の親子など幅広い世代を対象に、子供たちでも楽しめる特殊車両の操作実演などを通じて、地域の安全安心な暮らしを支える土木に親しんでもらうため、「さが土木フェア」を毎年開催している（写真－4）。

⑤ 建設技術フェアの開催

産・学・官における技術情報交流の場を提供し、一般の人にも建設業界の魅力や社会資本整備の必要性を広く認識してもらうため、関係機関の共催により、「SAGA 建設技術フェア」を開催している。

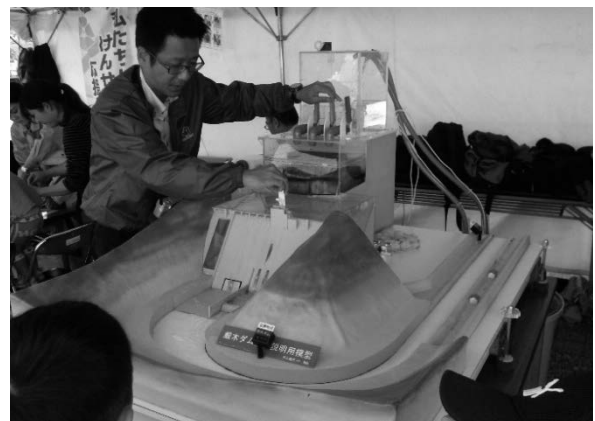
フェアでは、多くの企業・団体が「環境」、「防災」、「ICT」などをテーマに出展を行い、技術発表も行われた。

⑥ 「すごいぞ！ボクの土木展」の開催

平成30年の夏に、土木のイメージアップの一



特殊車両の展示



模型を使ったダムの役割説明

写真－4 さが土木フェア

環として、佐賀にゆかりのあるクリエイターを迎え、土木を題材とした企画展「すごいぞ！ボクの土木展」を開催し、約1か月の間に、大人から子供まで約7万人が訪れ、多くの入場者でにぎわった（写真－5）。



写真－5 すいぞ！ボクの土木展

(2) 将来の担い手育成の取組

建設業が将来的にも持続的に発展していくためには、次世代へ技術が継承されるよう担い手を育成する必要がある。

このため、現在、建設業に就業している若い世代に対し、やりがいや誇りをもって建設業に定着してもらうための取組を行っている。

① 若手育成支援セミナーの開催

主に入社10年未満の若手就業者を対象に、コミュニケーション能力や施工技術の向上などをテーマに、建設業で働く上での基礎的な知識を習得し同世代間の交流を促すため、専門家を講師に迎えグループワークによる講習を行っている（写真－6）。



写真－6 若手育成支援セミナー

② 技術力強化支援事業

建設業の就業者が、やりがいや誇りを持って働くことができるよう、施工管理技士等の国家資格取得のための講習費用や受験費用について補助を行っている。

3. 魅力ある建設業に向けて

県内の建設業が持続的に発展していくためには、建設業を、若い世代が希望をもって活躍できる、魅力ある職場としていく必要がある。

このため、建設業就業者の労働環境や処遇の改

善につなげるための取組を行っている。

(1) 県発注工事における週休2日制の取組

建設業就業者の長時間労働を是正するため、平成30年度から県発注の7,000万円以上の土木一式工事について、受注者希望型による試行を開始しており、さらに令和2年度からは、緊急を要する工事を除いた全ての工事を対象としている。

こうした取組により、長時間労働になりがちな建設業の労働環境の改善につなげていきたいと考えている。

(2) 生産性向上の推進

ICTを活用することで、一人一人の生産性を向上させ、企業の経営環境を改善し、建設労働者の賃金水準の向上を図るとともに建設現場の安全性の確保を推進するため、平成30年度から、土工工事を対象に受注者希望型のICT活用工事を試行している。さらに令和2年度からは、対象工事の拡大や発注者指定型も導入している。

また、ICT活用工事への理解を深めるため、現場見学会を実施し、その普及にも努めている（写真－7）。



写真－7 ICT活用工事現場見学会

(3) 建設業者への支援

就業者の労働環境や処遇改善など、建設業者が抱える様々な経営上の課題解決を支援するため、経営支援セミナーの開催や中小企業診断士などの

専門家招聘に必要な経費の助成を行っている。

(4) 女性技術者活動の推進

女性職員の活動を通して、誰もが働きやすい職場環境づくりや若い世代への建設業の魅力発信につなげていくため、佐賀県建設業協会と連携して、県内建設業に勤める女性土木技術者と県職員女性土木技術者とで、今年1月に意見交流会を実施した。

参加者からは、「以前に比べると働きやすい職場になった」、「体力仕事で残業が多く自分の時間がないといったイメージがまだある」、「これを機に環境改善の提案や新しい取組につなげていければ」など、活発な意見交換会となった(写真－8)。



写真－8 女性職員意見交換会

4. おわりに

今後とも、本県建設業の担い手の育成や確保に向けて、建設業界の皆さんと一緒に建設業のイメージアップに努め、また、建設業が若者にとって働きやすく魅力ある就業の場となるよう、引き続き取り組んでまいりたい。